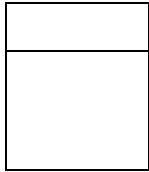


中学校（1年生）社会科学習指導案



平成28年9月24日（土）第3校時
 在籍生徒数 40名
 授業者 関 恭輔
 場 所 8402教室

1 単元名 中世の日本 「武士の世の中と民衆の発展」

2 単元の目標と評価

(1) 目標

武家政権の誕生から、武士の支配が全国に広まり、大きな時代の流れを理解させるとともに東アジア世界との密接なかかわりや対立、それが国内の政治に影響を及ぼしたこと、武士や民衆の活力を背景にして生み出された新しい文化の特色、農業や商業などの諸産業の発達などを理解させ、それが今日につながっているということに関心をもたせる。

(2) 評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断	資料活用の技能・表現	社会的事象についての知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・武家政権の成立と武家社会の発展、諸産業の発達と民衆の成長、東アジア世界とのかかわりに対する関心を高め、意欲的に学習している。 ・日本の伝統文化に対する関心を高め、今日に残る中世の文化や文化財を尊重しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・武家政権の成立と武家社会の発展、諸産業の発達と民衆の成長、東アジア世界とのかかわりから見だし、歴史の流れと時代の特色を多面的・多角的に考察できている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中世の政治の展開、経済の発達と社会の変化、文化の広がりに関する図版、史料、年表、歴史地図などのさまざまな資料を活用し、追究した結果をまとめたり、説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・武家政権の成立と武家社会の発展、諸産業の発達と民衆の成長を、東アジア世界とのかかわりを背景に理解し、その知識を身につけている。 ・中世の文化の特色と、その中に今日につながる文化の原型があることを理解し、その知識を身につけている。

3 単元について

(1) 教材観

本単元は、中学校社会科の学習指導要領の記載、「12世紀ごろから16世紀ごろまでの歴史を扱い、我が国の中世の特色を、世界の動きとの関連に着目して学習させる。」を受けて設定したものである。我が国の中世の特色を大きくとらえさせる観点から、政治・外交面と社会・文化面を中心とする二つの中項目で構成した。

鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的

な変動などを通して、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まってきた政治・外交面が発展してきたことを理解させる。

諸産業の発達と都市や農村の変化など自治的な仕組みの成立や絵画や建築、現在にも結びつく文化の特徴をみていき、武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会・文化がうまれてきたことを理解していく。

(2) 指導観

生徒の実態をふまえ、資料の読み取りや予想を考えさせたり、グループで話し合いや調べ学習などの活動を行い、中世の日本の特色を捉えさせたい。武士の登場から発展していく背景の中で、民衆の発展や文化・社会の変化も視点をあて自ら考えたり、問題解決に取り組めるような指導を行っていく。

(3) 生徒の実態

中学校1年生では2学期に入り、はじめて社会科で歴史を扱う。1年1組では社会科の好きな生徒が多く、そのほとんどが歴史を学ぶことが好きであると、事前に行ったアンケートで答えている。しかし、授業内での挙手による発言が他クラスに比べて若干少ないと感じる。

そのため、授業の中では、生徒に挙手しやすい発問をいくつか取り入れたり、自身で考える時間やグループで話し合う時間を設けていく必要があると考える。発言の苦手な生徒や歴史の苦手な生徒にも支援していく授業展開を行っていく。

4 指導計画・時間 (1 / 9)

次	時数	主な学習活動	各時間の評価規準
○武士の台頭と鎌倉幕府			
1	1	・平安時代の中ごろに登場した武士がしだいに勢力を広げていったことを理解する。	●身近な地域に存在した武士団や守護・地頭などを積極的に調べ、地名と武士の関係などに関心を高めている。(関心・意欲・態度)
	2	・将軍や執権と御家人の関係に注目して、武家政権の特色を考える。	●「北条政子のうったえ」を読み、朝廷と幕府の勢力関係、将軍と御家人の関係を考察している。(思考・判断)
	3	・農業技術や手工業、商業の発達による生活の向上がもたらした社会の変化を考える。	●鎌倉時代の農業技術や手工業・商業の発達とそれにもなう生活の向上について理解し、その知識を身につけている。(知識・理解)
	4	・鎌倉時代の新しい仏教の特色を理解し広まった理由を考える。	●鎌倉仏教が中世を通して多くの人々の心をとらえて広まっていった理由を、教えの特色や社会の動きと関連させて考察している。

			(思考・判断)
○東アジア世界とのかかわりと社会の変動			
2	1	・鎌倉幕府が滅亡した理由を、モンゴルの襲来の影響や社会の変化から考える。	<ul style="list-style-type: none"> ●地図からユーラシアという大きな世界が誕生したことを読み取るなど、歴史地図を活用している。 (技能・表現) ●モンゴルの襲来が国内の政治に及ぼした影響を、幕府を支えていた御家人の動きから考察している。 (思考・判断)
	2	・建武の新政から南北朝の動乱に至る経過や、動乱がもたらした武家社会の変化を理解する。	●建武の新政から南北朝の動乱に至る経過や、動乱がもたらした武家社会の変化を理解し、その知識を身につけている。(知識・理解)
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・室町幕府のしくみをまとめ、鎌倉幕府のしくみとの共通点や相違点を考える。 ・農業や商業、手工業の発達し、民衆の力が伸びてきたことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●室町幕府のしくみの概略をまとめ、鎌倉幕府のしくみと比較しながら武家政治の特色を理解し、その知識を身につけている。 (知識・理解) ●農業や商業・手工業の発達が社会をどう変化させていくかを考察している。 (思考・判断)
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・土一揆などの様子から民衆の要求や自治的な組織が生まれたことを考える。 ・戦国大名の登場とその支配について応仁の乱や下剋上の風潮から考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ●土一揆が多発していたことに対する関心を高め、一揆を起こした民衆の要求や一揆の結果を追求している。 (関心・意欲・態度) ●歴史地図の戦国大名の分布図から、下剋上の風潮が全国に広がったことを読み取っている。 (技能・表現)
	5	・公家の文化と武家の文化の複合的な文化が生まれたことを理解し、現代に受け継がれているものに関心をもつ。	●日本の伝統文化に関心をもち、室町時代に生まれた文化で現代に受け継がれているものを見いだしている。(関心・意欲・態度)

6 本時の展開

(1) 本時の目標

平安時代の中ごろに登場した武士の勢力拡大について、地方や都で起きた戦乱の様子や

荘園と公領からなる新しい土地制度の広がりとの関連から考え理解する。

(2) 評価規準

身近な地域に存在した武士団や守護・地頭などを積極的に調べ、地名と武士の関係などに関心を高めている。(関心・意欲・態度)

(3) 準備

資料1 (教科書 60 ページ)

春日権現験記絵 白河上皇を警備する武官

(4) 展開

学習過程	学習活動 (◎) 教師の指導 (○)	生徒の反応	指導上の留意点 (・) 支援 (→) 評価 (□)
<p>事象提示 (5分)</p>	<p>◎絵を見せて、どんな人が写っているのか考えさせる。</p> <p>○今までと違い貴族だけではないよね。</p> <p>○ここではじめて出てきた人たちは誰だろうか</p> <p>◎上皇を今の天皇と置き換えて考えてみる。</p> <p>○もし天皇が道を歩いたりする時、どんな人たちが近くにいるだろうか</p> <p>◎武士がはじめてでてきたことがわかった。</p> <p>○今日は武士がしだいに勢力を広げて</p>	<p>○貴族 天皇 上皇 (既に知っている生徒) 武士 (既に知っている生徒) 僧</p> <p>○上皇 武士</p> <p>○偉い人たち 役人 <u>警備、警察</u> 家族</p>	<p>・馬車に乗っている人や貴族の後ろにいる人、少し離れて何かをかぶっている人たちをみる。</p>

<p>課題提示 (3分)</p>	<p>いったことを学んでいきます。</p> <p>なんで武士は成長していったのか考えよう。</p> <p>◎予想をたてさせグループごとに発表させる。</p>		<p>→現代の日本の天皇、政治家と警察や自衛隊などと比べて考える。</p>
<p>予想 (5分)</p>	<p>◎武士の登場</p>	<p>○武器とかをもっていたから貴族の力をうばっていった。</p>	<p>・個人で考えさせたあと、グループで話し合いをさせる。</p>
<p>追求解決 (30分)</p>	<p>◎教科書 60 ページを読ませる。 (地方で力をつけていた豪族と朝廷につかえていた武官とが<u>主従関係</u>をもつようになったことをつかむ) →武士団の形成</p> <p>◎武士団と荘園</p> <p>◎教科書 60 ページを読ませる</p> <p>○なぜ源氏と平氏が力をつけていくようになったのか、教科書 61 ページ 5 の資料をみながら考える。 (皇室とのつながりをひいているということを理解させる。また、荘園を広げていき勢力を</p>	<p>○教科書 60 ページを読む。</p> <p>○武士が大きくなっていったことをつかむ。</p> <p>○教科書 60 ページを読む。</p> <p>○資料 5 をつかって考える。</p>	<p>□身近な地域に存在した武士団や守護・地頭などを積極的に調べ、地名と武士の関係などに関心を高めている。(関心・意欲・態度)</p>

	<p>伸ばしっていったことを理解させる。)</p> <p>◎院政と武士</p> <p>◎教科書 60 ページを読ませる</p> <p>○白河上皇が行った政治の特色を発表してもらおう。</p> <p>◎まとめていく (板書)</p> <p>○なぜ平清盛が大きな力をもつようになっていったのだろうか。</p>	<p>○教科書 60 ページを読ませる</p> <p>○源氏に勝ったので多くの荘園を手に入れた。</p> <p>○太政大臣になって政治の実権を手に入れた。</p>	<p>→白河上皇がおこなった政治について書かれているところに線をひいてもらおう。</p>
<p>まとめ (5分)</p> <p>次回予告 (2分)</p>	<p>◎武士は朝廷とつながりを強めていき、多くの荘園を支配するようになった。</p> <p>政治の実権をも手に入れた。</p> <p>○平清盛の行った政治の続きから行います。</p>		

(5) 板書計画

<p>なぜ武士は成長していったのか考 えよう</p>		
<p>1. 武士の登場 地方：豪族（地方の警備） ↓ 武士 ⇒ 武士団成長 中央：武官（貴族の警備）</p>	<p>絵</p>	<p>3. 院政と武士 今まで、藤原氏の摂関政治 ↳ 1086年 白河上皇 「院政」 ・ 荘園の権利を認める。 ・ 寺社を保護する。 僧兵の出現 ↓ 争いが増加 保元の乱 1156年 平治の乱 1159年 平氏が力を増していく 武士は朝廷とつながりを強めていき 政治の実権をもつようになる。 </p>
<p>2. 武士団と荘園 平氏・桓武天皇の子孫 源氏・清和天皇の子孫 ○ 武士は荘園を広げていった。</p>		